

SPECIALSESSION01

新函館北斗駅・木古内駅・奥津軽いまべつ駅

# 新しく生まれる3つの駅から、北の未来が広がります。

2014年6月11日、北海道新幹線の新駅の駅名が発表されました。

北海道北斗市の新駅は「新函館北斗」、青森県今別町の新駅は「奥津軽いまべつ」に決まり、すでに決定していた北海道木古内町の「木古内」と合わせて3駅が2015年度末までに開業する予定です。新しい駅から広がる青函交流の未来図に、大きな期待が集まっています。

※駅コンセプトは平成25年5月鉄道・運輸機構 駅説明資料より ※画像提供:鉄道・運輸機構



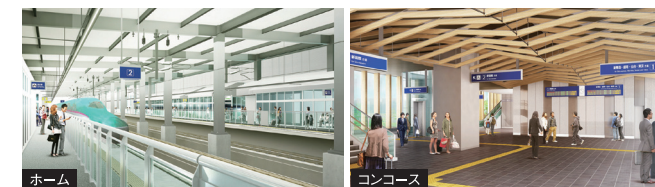
NEW STATION

2

## 木古内駅

波と森のプロムナード ～北の交流発信地～

木古内駅は、現在の江差線木古内駅に隣接します。過去・現在・未来へつながらまちの歴史性を、打ち寄せる波のリズムや木々の合間に満ちる木漏れ日にのせてデザインしています。垂直性を強調したリブ状の壁面は、間隔を変え、寄せては返す津軽の浜辺を表現するとともに、しっかりと根を下ろし、たくましく生きる木々や人々をイメージしています。



NEW STATION

1

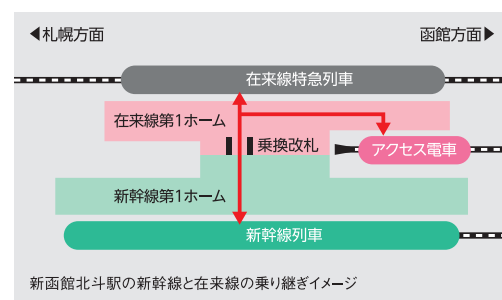
## 新函館北斗駅

自然と共に呼吸(いき)するモダンで温かみのある駅



新函館北斗駅は、現在の函館本線渡島大野駅付近に位置します。北海道の新たな玄関口として、地域の自然を感じながら、まちとの一体感を強調したデザインになっています。トラピスト修道院へ続くポプラ並木をイメージした大きな柱が特徴的な駅舎には、道南のスギが使われています。大開口(エントランス)を設け、窓を通して駅とまちの積極的なつながりを意識したデザインで、駅にいながら北斗の四季が感じられます。

函館へのアクセス電車にも特急列車にも乗り継ぎスムーズ。



NEW STATION

3

## 奥津軽いまべつ駅

本州最北の地から北の大地へ ～津軽海峡の四季が感じられる駅～

新駅の「奥津軽いまべつ」は現在の海峡線津軽今別駅付近に位置します。今別町のシンボルである青函トンネルをゲート風にデザインし、そのガラス壁面から津軽の自然を表現します。シンボリックなアーチを冠した駅入口と奥に延びる連絡通路、背後の駅舎を結びつけて、青函トンネルとその先に広がる津軽海峡、さらに北海道の北の大地をイメージさせるデザインです。



### 函館総合車両基地

北海道新幹線唯一の  
総合車両基地

車両の整備・点検を行うための総合車両基地も、七飯町に建設中です。全体で約36ha(札幌ドーム約6.5個分)という広大な面積に、「車庫」「日常検査場」「工場」の3つの機能を持つ、全国で5番目の新幹線基地となります。

